

令和7年度

徳島市八万中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自らの目標に向かって、自ら学習に取り組む生徒の育成

校長

林 義勝

学力向上推進員

濱田 恭子 寒葉 友樹
濱谷 瞳也

【各校の取組状況の把握について】

・学校評価アンケート、各テストなどによる現状把握、管理職による授業参観や相互参観授業、教員自身の振り返りなどを活用するなど、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は真面目に取り組んでいる。そのため、ある程度の割合で、学習内容が理解ができています。 ●家庭学習の習慣が十分身につけていない生徒が一定数おり、確実な学力の定着には結びついていない。	・家庭学習の習慣を定着させ、基礎基本の学力を身につけることができる。	・機会をとらえ、「家庭学習の必要性」を生徒に理解させる。 ・積み重ねることのできる実行力を育てる。 ・テスト計画表などの活用や保護者への啓発。		・単元プリントや小テストなどを活用し、自分自身のふり返りや基礎的な内容の確認を行うことで学習の定着度や理解度を把握できた。 ・定期テストの計画表や学年だよりなどを活用し、見直しをもった学習を意識づけさせることで、自ら目標を立て家庭学習に励む生徒が増えてきている。	・家庭学習については、自分にあった学習方法や必要な学習課題について一人ひとりが考えられるような方策を練る。 ・学習の指針となる冊子を作ったり、機会を捉えて啓発をするなどして本人の意識づけをしていくとともに家庭と連携を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考が求められる発問に対しても、積極的に考えようとする生徒は一定数いる。 ○ノートへのまとめ方が工夫したまとめ方ができるようになりつつある。 ●文章にまとめたり、人にわかりやすく説明したりする力が、十分身に付いていない。	・整理する力 ・読み取る力 ・まとめる力 ・説明する力 を伸ばし、自分が設定した目標にむかって努力できる。	・「思考」させる発問の工夫。 ・よりよいノートづくりの指導。 ・わかりやすくまとめる力と説明する力を育てるための授業の工夫。 ・効果的なICTの活用。 ・学習形態を工夫する。		・生徒間や教師対生徒など自分の意見や考えを伝え合う時間が様々な授業内で設けられている。特に今年度は人権学習内での意見交換などが活発に行われ、自分の考えをまとめ伝える機会が増えた。また、生徒と意見交換をスムーズにするために、タブレットを利用する教員もみられた。生徒が意欲的に授業に参加できるような工夫改善がみられる。	・機器や通信状況などの問題はありますが、タブレットを利用した授業を実施する教科を増やす。 ・まとめる力や説明する力をさらに伸ばすため、授業形態を考える。また、より深く考えさせるために発問を工夫する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、発問に対し意欲的に答えようとする生徒、他者と学び合いができる生徒は多数いる。 ●与えられた課題には真面目に取り組む生徒が多いが、自ら課題を見つけ、対策を立て、計画を立てる取組みができていない生徒は少ない。 ●授業の振り返りを行うことができていない教科が多い。	・「振り返り」の定着 ・自らの理解度合いを振り返り、不十分なところを見直すことができる。 ・自分の力に適した課題を見つけ、高めるための努力ができる。	「振り返り」の定着 ・各教科で授業の振り返りを行う。 ・生徒自らが課題を見つけ、対策を立て、計画を立て、実行に移すことができるような力を育てる。		・「振り返り」については、引き続き共通理解を深め、徹底していく必要がある。 ・定期テスト計画や各教科の提出物など、教員が細かくチェックし助言をすることで見直しをもった学習できる生徒も増えてきているが、まだ十分とは言えないので、地道な指導を徹底していく。	・「振り返り」を確実にできるよう共通理解を図る。 ・自ら考えて行動できる生徒を中心として、周囲にもその行動が広がるような方策を検討する。 ・学習内容により、意欲的に取り組めるよう発問に工夫を凝らす。